

■ドイツ：送電線建設プロジェクト、沿線住民から資金調達

2013年6月14日付のドイツ紙によると、ドイツの送電系統運用者 TenneT TSO がシュレスビヒ・ホルシュタイン州政府と協力し、地域住民から建設費用を調達するという送電線建設の試験プロジェクトの詳細が明らかになった。本プロジェクトではドイツ北西部シュレスヴィヒ・ホルシュタイン州西側の北海沿岸地域のニービュルからブルンスビュッテルまでの約 150km の区間に 380kV 高圧送電線を建設する計画で、この送電線は 2018 年までに系統連系される見込み。TenneT TSO は、建設にかかる総費用 2 億 1,000 万ユーロの 15%にあたる約 3,150 万ユーロ分について、一口 1,000 ユーロから出資可能となるハイブリッド証券という形で地域住民や地権者に限定して発行し、資金調達する予定である。証券は計画段階で年率 3%、建設開始段階で年率 5%の利回りとなっており、通常の社債よりも利回りが高い。ハイブリッド証券とは、株式と社債の間のような資本かつ債権の性質を持つ形態で、償還期限が極めて長く、高い利回りを提供する一方で、法的弁済順位が低いというリスクを持っている。また、ハイブリッド証券は、格付け会社から一定の資本性が認められており、自己資本比率を高めたい企業にとっては財務の安定性を高めるメリットがある。